

CSRレポート
2016

関西テレビ放送
2015年度 CSR報告書

8 カンテレ

ごあいさつ

頑丈で柔軟なコンテンツメーカーであり続け、視聴者の皆さまに楽しんでいただける番組を毎日送り届けること—これこそがカンテレの使命であり、私たちの仕事の根っこにあるものだと考えています。

2015年度もインターネットを巻き込んで大きな話題を呼んだ『サイレン 刑事×彼女×完全悪女』や、シーズン指折りの佳作と評価いただいた『お義父さんと呼ばせて』といったドラマなどを全国にお届けし、また関西ローカルエリアでもおなじみの『よ〜いドン!』やゴールデン帯の『ちゃちゃ入れマンデー』ほか、いくつもの番組が地元の皆さまの厚いご支持を頂いています。

報道では2015年度3つのドキュメンタリー作品が文化庁芸術祭賞などを受賞、また2016年4月からは夕方のニュース番組を大きく刷新し、現在『みんなのニュース ワンダー』として「激戦区」といわれる時間帯に新たな選択肢をご提供しています。

技術の面でも変わりゆく時代への対応を次々に行っています。

2016年の初めには全編を高画質4K映像で撮影したドラマシリーズ『大阪環状線 ひと駅ごとの愛物語』を制作、そのほか放送技術の進歩に大きく貢献する数々のイノベーションに取り組み、評価を頂戴しました。

その他の各番組や事業催事、動画配信などのご提供を含め、私たちはこれからも「頑丈で柔軟なコンテンツメーカー」として多岐にわたる仕事を継続し、視聴者の皆さまに楽しい時間をお届けしてまいります。

このCSRレポートは、そうしたテレビ局としての根幹の使命を果たしながら、カンテレが社会への貢献、文化の振興を目標に取り組んでいるさまざまな活動についてまとめたものです。次の時代に向かって走り続けるカンテレの、いままさに現在の姿を、多少でも皆さまにお伝えできましたら幸甚です。

関西テレビ放送株式会社
代表取締役社長

福井 澄郎



CONTENTS 目次



- 02 本冊子につきまして
- 05 コンテンツメーカーとしてのカンテレ
 - 06 制作番組(大阪本社制作局・東京コンテンツセンター)
 - 07 報道番組(大阪本社報道局)
 - 08 スポーツ番組(大阪本社スポーツ局)
 - 09 事業活動(大阪本社事業局)
 - 10 コンテンツビジネス(大阪本社コンテンツビジネス局・東京コンテンツセンター)
 - 11 2015年度受賞一覧
 - 14 字幕放送—皆さまにカンテレをお楽しみいただくために
- 16 カンテレのメディアリテラシー推進活動・CSR推進活動
 - 17 社内組織「心でつながるプロジェクト」について
 - 18 メディアリテラシー推進活動
 - 18 出前授業
 - 20 映像制作支援「学びアイ」
 - 22 オープンスクール@カンテレ
 - 24 CSR推進活動
 - 25 地域コミュニティへの参画
 - 28 環境への取り組み
 - 31 人権への取り組み
 - 31 募金活動
 - 34 「ソーシャル・パフォーマンス」シリーズ
 - 37 そのほかの取り組み
- 39 自己検証番組「カンテレ通信」

本冊子につきまして

関西テレビでは番組の放送やイベントの開催など、コンテンツの制作を通じて視聴者の皆さまと広くコミュニケーションしていくことと同時に、メディアリテラシー推進活動やCSR推進活動によってより直接の、皆さまとのいわば「顔の見える関係性」もまた強めていければと願っています。

メディアが発信する情報の正しい読み解き方を受け手・送り手として互いに学び、鍛えていく「メディアリテラシー推進活動」を関西テレビが開始したのが2007年、さらに2013年にはCSR推進部という専門部署を設け、放送本業に関連させながら社会貢献をさらに一歩前へ進める「CSR推進活動」に取り組み始めました。

視聴者の皆さまとじかに触れ合い、自分たちの仕事の在り方をそこであらためて振り返ることで、エリア・地域でより必要とされる放送局となっていきたい——と取り組んでいる活動です。

関西テレビにとって新しい分野であるこれらの活動は、いまはまだ道は半ばです。たとえば「メディアリテラシー」ひとつとっても「正しい情報」「社会の役に立つ情報」について送り手はどう捉え、どう選んでいくべきなのか、それをどうお伝えしていくべきなのか——難しい問いです。そして簡単には出ない答えを、皆さまとの直接の対話・触れ合いを通してこれからも探していければと思います。

この関西テレビ「CSRレポート 2016」は、最初に発行した「2014」から数えて3冊目です。「道半ば」ではありますが、本冊子ならびに「カンテレCSR」についてぜひご叱責、ご助言を賜りましたら幸いな次第です。

※ 関西テレビのメディアリテラシー、CSR推進活動につきましてはホームページにも詳しく掲載しております。ぜひご覧ください。
<http://www.ktv.jp/csr/>



※ 本文中 担当部署の名称は2015年度のものです。
※ 2015年放送の番組、実施したイベント等は原則、西暦年号を省略しました。

視聴者の皆さまと、より「顔の見える」関係を—— 関西テレビのメディアリテラシー推進活動・CSR推進活動

**メディアリテラシー推進活動
出前授業 → P.18**

**メディアリテラシー推進活動
映像制作支援 → P.20**

**メディアリテラシー推進活動
オープンスクール@カンテレ → P.22**

**CSR推進活動
地域コミュニティへの参画 → P.25**

**CSR推進活動
環境への取り組み → P.28**

**CSR推進活動
人権への取り組み → P.31**

※ 図は関西テレビの視聴可能エリアです。

コンテンツメーカーとしての

カンテレ

よりよい番組を制作し、放送すること。

楽しんでいただけるイベントを企画し、開催していくこと。

また映画や動画配信、ビデオグラムといった分野でも

よい作品を作り続けること。

視聴者の皆さまにいつも必要としていただける

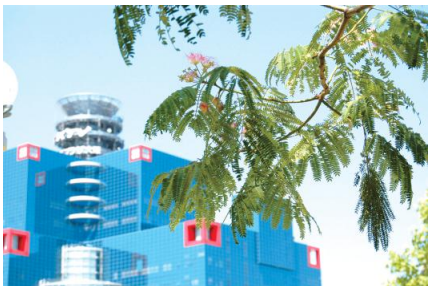
コンテンツメーカーであることこそが、

カンテレの「仕事の根幹」です。

2015年度、カンテレがお届けした

コンテンツをご紹介します。

※ 担当部署の名称は2015年度のものです。



制作番組 [大阪本社制作局・東京コンテンツセンター]

全国ネット番組

火曜よる10時のドラマでは、2015年度『戦う!書店ガール』『HEAT』『サイレン 刑事×彼女×完全悪女』『お義父さんと呼ばせて』の4作品を制作。ジャンルは同じドラマでも、それぞれが独自のアプローチに挑みました。また火曜日は2015年度以降よる9時台もカンテレが全国ネット番組の制作を開始し、2016年4月からは『ニッポンのぞき見太郎』がスタート。よる11時の『有吉弘行のダレトク!?』までの2時間半、カンテレ発の番組を全国にお届けしています。これらに加えおなじみの『SMAP×SMAP』(月曜よる10時)『にじいろジーン』(土曜あさ8時30分)『Mr.サンデー』(日曜よる10時)も、毎回よりよいエンターテインメントや情報を皆さまにお届けしようと取り組みを続けています。

ローカル番組

平日あさの『よ〜いドン!』は放送開始から8年、長らく関西の視聴者の皆さまのおなじみに、2016年5月には通算2000回を迎えました。ゴールデンタイムで放送しているカンテレのローカル番組も健闘中です。金曜の『快傑えみちゃんねる』はおかげさまで20年を超える長寿番組に。また『ちゃちゃ入れマンデー』は2015年度から放送枠を月曜から火曜に移しましたが、引き続き皆さまにご支援いただき、年度平均視聴率が10%を上回ることができました。

そのほか、週末も関西ならではのひとときを皆さまに過ごしていただくこと、土曜・日曜には『胸いっぱいサミット!』『ウラマヨ!』『さんまのまんま』『マルコポロリ!』などの番組を放送。これらも皆さまから長くご愛顧いただいています。

また2015年度は1月から3月の3カ月間、毎週火曜深夜10回のシリーズでオール自社制作のローカルドラマ『大阪環状線 ひと駅ごとの愛物語』を放送しました。JR大阪環状線沿線の各地で展開するさまざまな物語を高画質の4K映像で収録、また制作体制面ではこれが監督デビューとなる社員も含め、多くの若手ディレクターを起用しました。

ほかにはない文化と歴史をもつ、私たちの関西。

その関西の皆さまに必要といただけるローカル番組を作り続けることのできる制作者を、カンテレでは途切れることなく育成してまいります。

※ ローカル番組には番組販売により関西以外の地域の皆さまにご覧いただいているものもあります。



サイレン 刑事×彼女×完全悪女



よ〜いドン!



快傑えみちゃんねる



ちゃちゃ入れマンデー



大阪環状線 ひと駅ごとの愛物語

報道番組 [大阪本社報道局]

報道では2015年4月、ひる3時50分からよる7時まで3時間10分の大型ニュース情報番組『ゆうがたLIVE ワンダー』の放送を開始し、在阪他局にないボリュームで全国や関西のニュース、また生活に役立つ情報をお届けしました。

この間、関西では5月にいわゆる「大阪都構想」についての住民投票が行われ、8月には大阪府寝屋川市で中学1年生の男女が殺害される事件が起きました。また9月には安倍関連法案が成立しました。「ワンダー」ではこれらの事象に対し、綿密な取材を重ねてのVTR制作や機動的な生中継にスタジオでの解説を加え、より多角的にニュースをお伝えしました。

「ワンダー」は2016年4月から『みんなのニュース ワンダー』として2時間15分番組にリニューアルしましたが、全国や関西のニュースを今まで以上に取り込み、より密度の濃い内容を視聴者の皆さまにお届けできるよう、毎日取り組みを続けています。

またドキュメンタリーでは、戦後70年に合わせて先の大戦を改めて問いかけたザ・ドキュメント『軍神～忘れられた兵士たち～』(2015年11月放送)が文化庁芸術祭賞テレビ・ドキュメンタリー部門で優秀賞を受賞したほか、阪神・淡路大震災20年に当たり制作したザ・ドキュメント『想いを伝えて～阪神淡路大震災・父子が歩んだ20年～』(同3月放送)が日本民間放送連盟賞のテレビ報道番組部門で優秀賞を受賞しました。

さらに関西テレビのドキュメンタリーとしては初めて4K映像で撮影した『京の摺師～巴りに渡った浮世絵～』(同12月放送)が関西の優れた報道活動に贈られる坂田記念ジャーナリズム賞(国際交流・国際貢献報道部門)を受賞し、番組の内容だけでなく、映像の質の高さも評価いただきました。



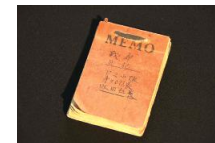
ゆうがたLIVE ワンダー



みんなのニュース ワンダー
(2016年4月から)



軍神～忘れられた兵士たち～



スポーツ番組 [大阪本社スポーツ局]

スポーツ局ではシーズンを通してのプロ野球中継、カンテレが長年取り組み続けている伝統の競馬中継をはじめ、多岐にわたるジャンルのスポーツ実況を根幹に、土曜深夜放送の「うまんchu♥～競馬でアナタを口説きます!～」や日曜あさの「イキザマJAPAN」などスポーツに特化したさまざまなレギュラー番組も制作、その魅力をあらゆる角度から皆さまにお届けしようと取り組んでいます。

全国の注目を集める大型中継番組としては、まず9月に「アジアパシフィックオープンゴルフチャンピオンシップ ダイヤモンドカップゴルフ2015」を放送しました。大会では国内のトッププロが集結するなか、韓国の金庚泰選手が混戦を抜け出して優勝しシーズン賞金王にも大きく近づくなど、ツアー最高レベルという難しいセッティングのもと、アジアナンバーワンを決める場としてふさわしい試合をお送りしました。

また1982年の第1回から昨年度35年目を迎えた「大阪国際女子マラソン」は、リオデジャネイロオリンピック代表選考レースとして2016年1月に開催されました。レースは福士加代子選手がオリンピック選考基準タイム(派遣設定記録)を上回る2時間22分17秒という好タイムで優勝し、オリンピック代表を決定付ける感動的なマラソン中継となりました。

そのほか各界のアスリートたちを長い時間をかけ丹念に取材したスポーツドキュメンタリーも数多く制作するなど、さまざまな規模やアプローチでスポーツの世界を映像化していくなかで、次の時代を担っていく若手制作者の育成も意欲的に行っています。

マラソンや競馬など「得意分野」「お家芸」と評価を頂戴している分野をはじめ、これからは皆さまにご満足いただけるカンテレ発のスポーツ・コンテンツをお届けできるよう、努力を重ねてまいります。



アジアパシフィックオープンゴルフチャンピオンシップ ダイヤモンドカップゴルフ2015



第35回 大阪国際女子マラソン

事業活動 [大阪本社事業局]

事業局では、展覧会事業の拡大と充実を念頭におき、2014年度に事業推進部を新設しました。

2年目となる2015年度はまず映画界の奇才、ティム・バートン監督の絵画やオブジェ、映像を展示する「ティム・バートンの世界」(2月～4月・グランフロント大阪)を開催し12万人のお客さまに、続く日本科学未来館の企画展「トイレ?行っトイレ!」(8月・同前)では身近なトイレの話題から地球環境を知る内容を展開し、夏休みの自由研究の題材として、親子連れの皆さまにも多数お越しいただきました。

12月から翌年2月にかけては、事業推進部新設の目標であった自主企画の展覧会「ダ・ヴィンチ!天才の遺産 レオナルドと歩む未来展」(グランフロント大阪)を開催しました。

企画から展示物の選定、調達、レイアウト、キャプションの作成まで自社制作で手掛けた展覧会です。本展開催で得たノウハウを今後のイベント開発に生かしていきたいと考えています。

事業推進部ではこのほか「昔も今も、こんびらさん。一金刀比羅宮のたからもの一」(あべのハルカス美術館)「二科100年展」(大阪市立美術館)「愛と平和の折り 藤城清治展」(天保山・大阪文化館)「唐画もん一武禪に間苑、若冲も」(大阪歴史博物館)「光のワンダーランド 魔法の美術館」(あべのハルカス美術館)など、多数の展覧会を開催いたしました。

一方事業部では昨年度も自主企画を柱に、舞台・ステージのイベントを数多く開催しました。

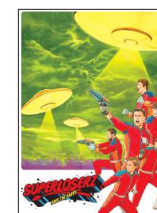
5年ぶりの大阪開催となった歌舞伎公演「大阪平成中村座」(動員 約4万8千人)は大坂の陣から400年にちなんで大阪ゆかりの演目をそろえ、連日の大盛況となりました。

また初めて関西テレビ社員が演出した舞台企画「本日、家を買います。」や、世界的演出家、宮本亜門氏とのタッグによる新感覚ダンス・エンターテインメント「SUPERLOSERZ SAVE THE EARTH 負け犬は世界を救う」、オフ・ブロードウェイヒット作の日本版「ミュージカル ドッグファイト」などの企画制作にも積極的に携わりました。

そのほか「レ・ミゼラブル」(動員 約6万人)「Endless SHOCK」(動員 約5万4千人)などの大型ミュージカルや「祝祭大狂言会 2015」「うめだ文楽 2016」などの伝統芸能、「KERA-MAP#006 グッドバイ」など良質な演劇、落語公演、クラシックコンサートに至るまで、多岐にわたるエンターテインメントをお届けいたしました。また毎年恒例のチャリティイベント「3000人の吹奏楽」は55回目を迎え、地域文化への貢献にも取り組んでいます。



ダ・ヴィンチ!天才の遺産
レオナルドと歩む未来展



SUPERLOSERZ SAVE
THE EARTH 負け犬は世界を救う

コンテンツビジネス [大阪本社コンテンツビジネス局・東京コンテンツセンター]

まず2015年度の映画製作では、9月公開の『アンフェア the end』が全国で多数の皆さまにご覧いただき、興行収入も23億円を超えるヒット作となりました。映画公開後はさらに動画配信やビデオグラムで、多くの皆さまに作品をお楽しみいただきました。

続いて11月に公開した『レインツリーの国』では、製作委員会で関西テレビが初めて単独幹事社を担いました。また聴覚障害者の女性が主人公のこの映画では、全国の映画館で1週間にわたり、すべての上映回で日本語字幕上映を行いました。

映像二次利用の部門では、まず動画配信が売り上げを大きく伸ばしました。

昨年度は海外資本の配信業者が日本市場に新たに参入することが話題となりましたが、関西テレビでも過去のヒット作ドラマなど、数多くのコンテンツを供給することができました。カンテレ発のコンテンツはこうして、放送後も多くの方々に動画配信を通してお楽しみいただいています。

ブルーレイやDVDのビデオグラムでは、2015年1月期放送の連続ドラマ『銭の戦争』が特に皆さまの好評を頂きました。またドラマ以外では金曜深夜放送の『桃色つるべお次の方どうぞー』がビデオグラムとしても大ヒット作となったほか、みうらじゅんさん・いとうせいこうさん出演の人気シリーズ『新TV見仏記』では高画質の映像で美しい仏像を再現するため、2回目となる4K撮影を行いました。この『新TV見仏記』はスマートフォンのアプリ開発やファンの皆さまとのツアー、衛星を通じての番組販売の試みなどの新展開にもチャレンジし、そのためにより多くのご支持を頂戴するコンテンツとなっています。

最後にマーチャンダイジング(グッズ販売など)の部門では『SMAP×SMAP』のグルメ商品が好評となり、多くの皆さまにお楽しみいただきました。このように放送関連の事業を展開するコンテンツビジネスでも、お届けするさまざまな成果物に触れていただくことで、皆さまにカンテレをもっとよく知っていただき、親しんでいただけるよう取り組みを続けています。



レインツリーの国



新TV見仏記

2015年度 受賞一覧

1 『みんなの学校』

2013年11月27日放送
2015 ニューヨークフェスティバル ドキュメンタリー部門 入賞

すべての子どもに居場所があることを目指し、児童・教職員に保護者や地域の人も加わって学校を作り上げてきた大阪市立南住吉大空小学校。1年間の取材で、あるべき公教育の姿や、子どもたちのために親や地域の人は何をすべきなのかを考え、いまの日本で進められる教育改革の方向を見つめ直した作品です。

※ ニューヨークフェスティバルは50か国が参加、ジャンルを問わず世界の優れた映像作品が出品される映像祭です。



2 ザ・ドキュメント 『想いを伝えて～阪神淡路大震災・父子が歩んだ20年～』

2015年3月8日放送
日本民間放送連盟 連盟賞 報道部門 優秀賞
第35回「地方の時代」映像祭 放送局部門 選奨

阪神・淡路大震災で母親と三男が亡くなり、父と長男・次男の3人で暮らしてきた神戸市のある家族。震災から20年、普段は何事もなかったかのように日常を過ごしながら、亡くなった家族への断ち切れぬ思いを抱え「震災体験を伝えること」「生きることの意味」を3人はそれぞれの方法で模索しています。一家の姿を通して、ともに支え合って生きることの意義、限りある命について考えた作品です。



3 ザ・ドキュメント 『芸の魂』

2014年11月22日放送
2015 AIB(国際放送協会)国際メディアコンクール
スペシャリスト番組部門 優秀賞

大阪が誇る伝統芸能、文楽 — 橋下大阪市長による補助金削減政策は、私たちに行政と伝統芸能の関係を問いかけるものでした。関西テレビでは補助金問題以降、文楽に取材したドキュメンタリー3本を制作、この作品では引退後の人間国宝・竹本住大夫さんにあらためて文楽にかける思いを聞き、その『芸の魂』に迫りました。世界各国の番組が参加する同コンクールで「親密な取材によって洗練された芸術の魂と精神を伝え、巨匠の内面を深く理解できる作品」と評価を頂きました。



4 『ゆうがたLIVE ワンダー』特集
「二つの美人画～浮世絵・摺師の仕事～」

2015年9月30日放送
関西写真記者協会 テレビ・ニュース映画の部 撮影部門 金賞

言葉にするには難しい「色」にこだわる摺師(すりし)の思いを、絵の具と京都の色彩を対比させ、長いワンカットやストップモーションの技法も取り入れて表現した映像作品です。
美しい色彩を再現するためほぼ全編を4Kカメラで撮影し、優れた報道写真・映像に対して贈られる同賞を受賞しました。

※ 第23回 坂田記念ジャーナリズム賞を受賞したザ・ドキュメント「京の摺師～パリに渡った浮世絵～」のスピナウト企画として制作、放送しました。



5 『FNNスーパーニュース アンカー』特集
「夕暮れがいざなう“命の営み”」

2015年2月19日放送
関西写真記者協会 テレビ・ニュース映画の部 企画部門 銀賞

夕暮れから夜にかけて活動する、生き物たちの魔法の時間(マジックワール)を映像化しました。
「夕暮れ」「街のすぐそば」という2つの約束事で生き物を探し、カメラマンの目を通して、知っているようで知らない世界のドラマや面白さを浮かび上がらせました。



6 ザ・ドキュメント
『軍神』

2015年11月26日放送
平成27年度(第70回)文化庁芸術祭賞
テレビ・ドキュメンタリー部門 優秀賞

1932年・第1次上海事変のさなか、自爆覚悟で敵方に突入し死んだとされる3人の若者たちは「肉弾三勇士」などと呼ばれ、子どもたちも知る「軍神」と奉られました。
真珠湾攻撃で特殊潜航艇に搭乗、戦死した9人の兵士、ガダルカナル島で戦死した大舟中隊長と、戦意高揚のためその後も生まれ続けた「軍神」—新聞社公募で歌が作られ、記念館や像も建てられた「軍神」の美談の真相に、番組は迫りました。
「丁寧な取材で当時の国民の反応を描き、戦争の真実に迫った」として評価を頂きました。



7 ザ・ドキュメント
『京の摺師～パリに渡った浮世絵～』

2015年12月12日放送
第23回 坂田記念ジャーナリズム賞 第2部門 (国際交流・国際貢献報道)

明治維新以降の混乱で日本から流出、欧米各地の美術館に埋蔵されている浮世絵版木の発掘に取り組む京都の木版画作家—フランス国立図書館で歌麿の大首絵を彫った版木を発見、年月をかけた交渉の末、ついにパリで歌麿版木を刷り始めます。
坂田記念ジャーナリズム賞は関西を拠点にした優れた報道活動に送られるもので、今回は「世界に影響を与えた浮世絵を生み出した版木と摺師の技能に光を当て、美の真贋とは何かを問いかけた」と評価いただきました。



8 クロマキーカット割りシステム
(画像認識による対象検出を利用したクロマキーカット割りシステム)

日本民間放送連盟 連盟賞 技術部門 優秀賞
映像情報メディア学会 技術振興賞 進歩開発賞 (現場運用部門)

天気予報などで、手前の人物と背景を別々の映像で合成するクロマキー—この撮影は普通1台のカメラで行っています。2台のカメラで人物の「アップ」や「全身」をカット割りしても、背景の天気図などを適切な大きさに合わせることが難しかったからです。
人物がアップのときは背景もアップに—というように、クロマキーのスタジオで2台以上のカメラを使い、より見やすい映像をお届けできるようにしたのがこのシステムです。
これまでも高価なコンピューターを使った「バーチャルスタジオ」なら合成は可能でしたが、このシステムは低コストでそれを実現、教育現場などでの応用も期待されるとして、各方面から評価を頂きました。



9 24時間地震収録システム
(動きベクトルを応用した地震発生時の映像を自動切り出しする24時間地震収録システム)

映像情報メディア学会 技術振興賞 進歩開発賞 (現場運用部門)

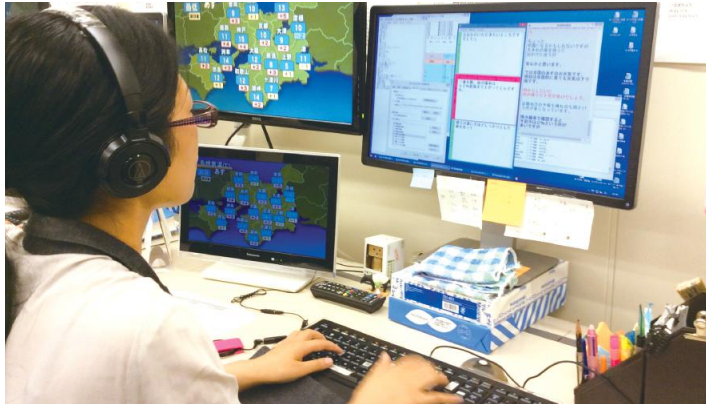
地震の発生時、各地に設置された天気カメラの映像は、最初の状況をお伝えするために重要なものひとつです。
地震で揺れ始める直前には、気象庁から緊急地震速報が出ます。
このシステムは24時間365日稼働していて、緊急地震速報をもとに揺れが始まる時間を自動的に算出し、映像を分析することで、揺れ始めのポイントを自動的に切り出します。
地震の報道をより速く、確実にお届けすることを可能にしたシステムとして、評価を頂きました。

※ 24時間地震収録システムは2014年度「日本民間放送連盟賞 技術部門 優秀賞」「日本映画テレビ技術協会 技術開発賞」を受賞しました。



字幕放送

皆さまにカンテレをお楽しみいただくために



2011年の地上波テレビ完全デジタル化で本格的に普及し始めた「字幕放送」は、皆さまにもすでにおなじみのことと思います。

耳のご不自由な方、ご高齢の方々にもテレビをお楽しみいただき、さらに公共の場所や飲食店など音声が聞かせないところでも広くご利用いただいています。

関西テレビでは国が定める指針に従い2015年度末現在97.2%の番組で字幕放送を行っており、また字幕の制作は、グループ会社の(株)関西テレビソフトウェアがほぼすべてを担っています。(※)

災害などで東京キー局の放送機能が万が一低下、停止するなどした場合は、準キー局である関西テレビがそれをカバーし、ネットワーク放送を維持していく必要があります。

自社グループで字幕制作を行える体制が整っていれば、そうした万が一の場合でも即座に、多くの番組で支障なく字幕放送を行うことができます。

生放送での字幕表示の遅れをいま以上に短縮し、正確さを向上させることなどとともに、こうした自社制作体制をさらに充実させることも、私たちのこれからの重要な課題です。



※ 総務省「視聴覚障害者向け放送普及行政の指針」が指定する、午前7時から午前0時の「字幕付与可能な放送番組」に占める割合です。
複数の出演者が同時に会話する生放送番組や、大部分が器楽演奏の音楽番組などは除きます。



カンテレの

メディアリテラシー推進活動・

CSR推進活動

メディアが発信する情報の正しい読み解き方を
視聴者の皆さまとともに学び、
鍛えていくメディアリテラシー推進活動。

皆さまとの直接の対話、取り組みを通じて
エリアや地域社会への貢献を目指すCSR活動。

これらの2015年度実績をご報告します。

社内組織

「心でつながるプロジェクト」について

関西テレビの社内横断組織「心でつながるプロジェクト」(略称「心PJ」)は管理部門、流通部門、制作現場とさまざまな職場から社員が参加し、活動しているプロジェクトチームです。メンバーは原則2年のサイクルで交代し、毎年ほぼ半数が新しい顔ぶれでスタートを繰り返します。

関西テレビのメディアリテラシー推進活動、CSR推進活動はこのプロジェクトを通じて社内に情報共有され、また各活動を具体的に実行していく際に社員らが協力し合う起点ともなっています。

「心PJ」は2007年、関西テレビが『発掘！あるある大事典II』の問題に直面したことがきっかけで発足しました。

そのとき私たちは、問題が投げかけたあまりにも重い教訓から何を学び、そして視聴者の皆さまともう一度「心でつながる」にはどう行動していけばいいのかを「心PJ」の活動を通して考え始めたのでした。(※)

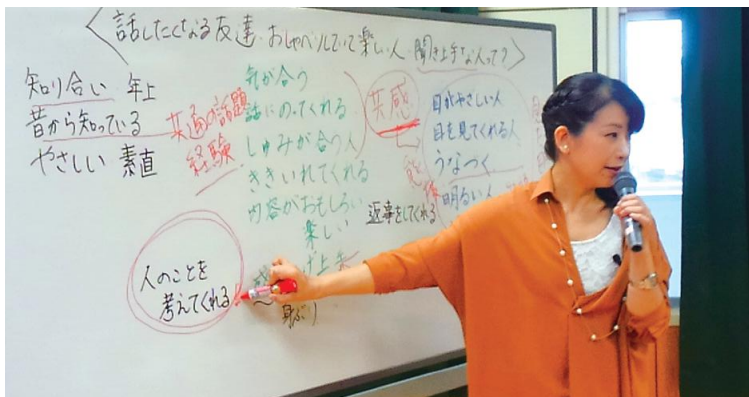
関西テレビのさまざまな社内プロジェクトのうち、この「心PJ」は最も長期間継続しています。それは2007年のPJ発足時に私たちが共有した、視聴者の皆さまと「心でつながる」ことへの決意を変わることなく維持するためであり、そしてその「つながり」を具体化するメディアリテラシー、CSRの活動においていまだ何が必要なのかを、私たちカンテレ社員がともに、常に考え続けていくためのものです。

※ 詳しい経緯は関西テレビのホームページ・トップ画面のバナー「心でつながるプロジェクト」からご覧いただけます。



メディアリテラシー推進活動

01 出前授業 (2008年～現在)



関西テレビの各職場で働く現役社員が講師となり、放送エリア内各地の小・中・高校などに授業の「出前」をする活動です。

2007年発足の「心でつながるプロジェクト」が実行に移した最初の活動のひとつで、2016年現在9年間継続しています。

「出前授業」の目的は、まず社員講師が携わるそれぞれの仕事について児童・生徒の皆さんにお伝えすることで、メディアリテラシーについての知識を身に付けていただくことです。また、私たち社員の側もこの活動を通して、自らの仕事の意味を改めて問う機会としています。

メディアリテラシーとは、誰もが互いに情報の受け手・送り手として「学び合う」ことなのではないか、と私たちは考えています。



メディアリテラシー推進活動「出前授業」の課題と目標

「カンテレ流 出前授業」の特徴は

- ・応募いただいた学校に「どんな内容の授業をしてほしいか」「どの分野の講師に来てほしいか」などのご希望を伺い、関西テレビの担当者がご相談しながら、毎回オーダーメイドで授業を構成していること
- ・「現役」の講師が授業に伺うことで、テレビの仕事について最新の情報＝テレビの「いま」をお伝えしていること一などです。

ただし、課題もあります。

- ・現役社員が講師となることから、1年間で実施できる回数が限られてしまうこと
- ・授業1回あたりの児童・生徒の皆さんの人数も、一定数に限られてしまうこと一などです。

そこで「出前授業」を補完する活動として、関西テレビでは「オープンスクール@カンテレ」(p.22参照・2010年スタート)を毎年行っていますが、2016年度はこれに加え、さらに新しいメディアリテラシー関連催事を計画しています。

2015年度 出前授業 実施校 ()内は講師社員の所属部署

2015年

- 5月15日 河内長野市立 加賀田小学校 6年生 (アナウンス部)
- 6月12日 大阪市立 平尾小学校 5年生 (CSR推進部)
- 7月7日 兵庫県立 和田山特別支援学校 3年生 (アナウンス部・CSR推進部)
- 7月10日 豊中市立 第十三中学校 2年生 (制作部)
- 8月18日 奈良県高等学校 放送部・映像部・放送委員会 夏期合同研修会 1・2年生 (アナウンス部)
- 8月26日 堺市立 南八下中学校 3年生 (アナウンス部)
- 10月19日 京都聖母学院小学校 国際コース 6年生 (コンテンツ事業部)
- 11月13日 大阪市立 塚本小学校 6年生 (制作部)
- 11月27日 東大阪市立 高井田西小学校 5年生 (報道映像部)
- 12月1日 池田市立 石橋中学校 2年生 (制作部)
- 12月4日 五條市立 北宇智小学校 5年生 (宣伝部)
- 12月11日 大阪市立 梅南津守小学校 5年生 (報道センター)
- 12月21日 宝塚市立 長尾南小学校 5年生 (アナウンス部)

2016年

- 1月25日 富田林市立 伏山台小学校 5年生 (報道センター)
- 2月9日 京都聖母学院小学校 総合コース 6年生 (アナウンス部)
- 2月18日 神戸市立 白川台中学校 2年生 (美術部)
- 3月18日 マリスト国際学校 9・10年生 (CSR推進部)

●「出前授業」のお申し込み

毎年3月から関西テレビのホームページで受け付けを行っています。
※ 2016年度の募集は締め切らせていただきました。



02 映像制作支援「学びアイ」(2009年～現在)



高校を中心にエリア内の放送部・サークル・放送研究会の皆さんが取り組むビデオ映像制作を、カンテレ社員が講師となって支援する活動です。
番組制作・技術部門の担当者やアナウンサーら社員が学校に伺い、あるいは生徒の皆さん、顧問の先生方に関西テレビへお越しいただきます。

企画(何を伝えるのか)構成(伝えるために、どう表現するのか)など幅広いテーマを巡って参加していただいた皆さんとの「手作り」で活動を進め、出前授業と同様に、お互いがメディアリテラシーを「学び合う」ことを目指しています。



メディアリテラシー推進活動「映像制作支援・学びアイ」の課題と目標

「映像制作」の課題とは何でしょうか。

少しお話が飛ぶようで恐縮ですが、いまや映像表現は私たちなどが手掛けてきた、取材(収録)し、構成し、編集して一編の「作品」を完成させる—といったベーシックな手法を超え、その幅ははるかに広がっています。
いつ、どこで、誰に、どうやって映像を見せるのか、といういわゆる「出口」もどんどん多様化しています。

こうした時代に、市民制作者の皆さまとの交流を通じて私たちの側が学び、糧としていくのか、また、私たちからは皆さまに何を提供できるのか—ということこそが、映像制作を巡るいまの課題であり、私たちもそこに目標としての答えを見いだしていなくては、と思います。

2015年度 映像制作支援「学びアイ」実施校 ()内は講師社員の所属部署

兵庫県立 北須磨高校 放送部 2015年8月27日 (アナウンス部・CSR推進部)

大阪府立 成美高校 放送部 2015年9月8日～2016年2月10日 (報道センター・CSR推進部)

箕面自由学園 放送部 2016年3月9日 (制作技術部)



● 映像制作支援「学びアイ」のお申し込み

毎年3月から関西テレビのホームページで受け付けを行っています。
2016年度分を募集中です(2016年7月現在)。

03 オープンスクール@カンテレ (2010年～現在)



夏休みの小学生たちと保護者の皆さまを対象に毎年開催している、メディアリテラシーをテーマとするイベントです。会場は関西テレビ本社1階の多目的スタジオ「なんでもアリーナ」と公開広場の「インタラクティブエリア」です。なんでもアリーナではカンテレ社員らによる公開授業を実施、またインタラクティブエリアではさまざまな体験型展示にご参加いただいています。

公開授業では、テレビのさまざまな仕事についての講義を通してメディアリテラシーを学んでいただくとともに、お越しいただいた小学生の皆さんの会場での体験にも重点を置き、知識をわかりやすくお伝えするよう取り組んでいます。

2015年度 公開授業の内容 ()内は講師社員の所属部署

● 1時限目 「ことばのチカラワークショップ」 (東京コンテンツセンター制作部)

火曜よる10時放送の連続ドラマを監督しているディレクターが講師を務めました。ドラマの脚本家が「オープンスクール」のために書き下ろしたオリジナル台本を教材に小学生たちが演技や演出を体験、ドラマのセリフ＝「言葉」というものが、人が心を通わせるうえでどのような影響力を持つのかを学びました。



● 2時限目 「映像のチカラワークショップ」 (報道映像部)

ニュースやドキュメンタリーを手掛けている報道カメラマンが講師を務めました。陸、空、水の中—どこへでも行くテレビのカメラマン。講師がこれまで撮影してきた数々の映像を公開、また小学生たちにもプロが仕事で使う大きなカメラを操作してもらいながら、テレビの生命線ともいえる「映像」の力や意味について一緒に学びました。



● 3時限目 「音のチカラワークショップ」 (制作技術部・株テレコープ)

3時限目は目には見えない、音についての講義です。講師は音声と音響効果の担当者2名が務めました。会場に用意したいろいろな道具を使って小学生たちがオリジナルの効果音を作り、その場の編集で映像に当てはめる、という体験をしていただきました。視覚とはまったく異なる作用を人に与える「音」の不思議な力について、ともに面白く学びました。



メディアリテラシー推進活動「オープンスクール@カンテレ」の課題と目標

デバイスの面でも、ソフト(中味)の面でも、テレビを含め、人と人のコミュニケーションの経路であるメディアは、まさに日々刻々の勢いで変化しています。そのメディアを介して流通する情報の読み解き方、伝え方を知ること＝「メディアリテラシー」について、公開授業という形で皆さまと共に学ぶ場が「オープンスクール」です。

変わりゆくメディア環境についてテレビ局の社員である私たちができる限り最新の知識やノウハウを動員しながら、どれだけのことをお伝えし、皆さまと共有することができるのか—このハードルを越えることが「オープンスクール」の毎年の課題です。

次回の「オープンスクール@カンテレ2016」でも、テレビやメディアについての最新の知見をお持ち帰りいただけるよう、内容を構成してまいります。毎年新しい「オープンスクール」を皆さまにお届けしていくこと—これが私たちの目標です。

※「オープンスクール@カンテレ」は阪急阪神ホールディングス(株)の体験プログラム「阪急阪神 ゆめ・まち・チャレンジ隊」にご協力いただいています。

CSR推進活動

ここまで記してきた「メディアリテラシー推進活動」と比べますと、関西テレビが明確に「CSR推進活動」と銘打ってその取り組みを始めたのはいくぶん後年のこととなります。

CSR (Corporate Social Responsibility) は「企業の社会的責任」と訳されますが、その本義からすれば、迅速で正確な報道をはじめ視聴者の皆さまに必要としていただけるさまざまなジャンルの番組や、そのほかのエンターテインメントをお届けするなど、関西テレビ本来の業務を果たすことこそがまず、私たちのCSRそのものといえます。

ですが関西テレビではそこから考えをさらに一歩進め、2013年に専門部署 (CSR推進部) を社内に設け、より積極的なCSR推進活動への取り組みを始めました。

なお先行するメディアリテラシー推進活動も、関西テレビによる社会への貢献という意味で、大きな観点から見れば「カンテレCSR」に含まれます (この小冊子を『CSRレポート』と呼ばせていただいているのもそのためです)。

関西テレビでは現在取り組んでいるCSR推進活動を「地域コミュニティへの参画」「環境への取り組み」「人権への取り組み」という3つのカテゴリーに分けて具体化しています。

ここからは、これらのカテゴリーに分類して、2015年度に関西テレビが行ったCSR推進活動をご報告いたします。

01 地域コミュニティへの参画



放送エリア約2200万人の皆さまに広く番組をお届けしている関西テレビは、本社社屋のある「大阪市北区扇町」やかいわいが形成する地域コミュニティの一員でもあります。

私たちは「地域コミュニティへの参画」をCSR推進活動の目標の一つに置き、地域の皆さまのさまざまな活動に参加させていただいています。

●2015 天神天満阿波おどり (8月23日開催)

関西テレビのすぐお隣にあるのが、約400年もの歴史を持ち、日本一長い商店街といわれる天神橋筋商店街です。

全長3キロ近くのアークードと、南端に隣接する大阪天満宮を舞台に毎年繰り広げられる「天神天満阿波おどり」は、ここならではの夏の風物詩——地元・大阪市立扇町総合高校吹奏楽部の演奏なども加わり、一帯は大にぎわいとなります。

関西テレビでは2013年からこの催しを後援し、実行委員会にも参加させていただいています。もちろん社員も一緒に踊っています!



●第16回 天満音楽祭 (10月4日開催)

阪神・淡路大震災で学んだ仲間作りの大切さを忘れない——16年前、有志たちのそうした思いから始まったのが「天満音楽祭」です。

商店、企業など地元の支援やボランティアの協力など、文字通り関係者の手弁当でスタートしたこの催しも、いまはあらゆるジャンルから350以上のバンドが参加、大阪市北区一帯の三十数会場で演奏を繰り広げます。

関西テレビも後援、実行委員会への参加のほか、本社1階「インタラクティブエリア」を会場に、この「手作り音楽祭」のお手伝いをさせていただいています。





アート＝美術や芸術の力を借りて人と人をつなぎ、世の中の役に立つこともできるのでは——そうした考えのもとに集まったNPOや企業、行政機関などの方々とともに「ソーシャルアートウエーブ」という取り組みを行いました。取り組みでは同じ目標を持つさまざまなメンバーがアイデア、意見を交換する公開会議などを重ね、その一環として「のせてんアートライン妙見の森2015」に協力しました。



Social Art Wave

「ソーシャルアートウエーブ」のロゴマーク

●ソーシャルアートの祭典「のせてんアートライン妙見の森 2015」
(10月10日～11月23日開催)

阪急・川西能勢口駅を起点に大阪府豊能郡能勢町、兵庫県川西市などの北摂地方を走る能勢電鉄、愛称「のせてん」。沿線人口の減少、高齢化がこの地域の課題です。

「ソーシャルアートウエーブ」の考えに基づいて、アートの力で地域の元気をもう一度取り戻そう——と、能勢電鉄、地元自治体などが開催した「のせてんアートライン妙見の森2015」に、関西テレビも実行委員として参加しました。

45日間の会期中、沿線各地の会場には国内外の参加アーティスト50人以上が工夫を凝らした作品を展示、住宅地や里山の広がる風景を楽しく活気づけ、約1万3千人の皆さまにお越しいただきました。

関西テレビでは自己検証番組「カンテレ通信」(※)でこれをご紹介したほか、関FM802との協業で催しの魅力をレポートするFM放送のレギュラー番組を立ち上げるなど、広報面を中心に各種の役割を担いました。

※「カンテレ通信」はp.39参照



●第23回 ワン・ワールド・フェスティバル (2016年2月6日・7日開催)

来場者と出展者、出演者がともにグローバルな視野を広げることを目的とする西日本最大級の国際協力のお祭りで、1993年以来大阪で行われています。2014年度の第22回および2015年度は関西テレビ(社屋1階「なんでもアリーナ」「インタラクティブエリア」)と大阪市北区役所、扇町公園を会場に開催、今回の催しではNPO、国際機関、政府機関など169団体がブース展示や音楽・ダンスなどのパフォーマンスで参加し、2日間の会期中約2万4千人の皆さまにお越しいただきました。

関西テレビでは会場のご提供のほか、フェスティバル全体の中での主催行事として「ソーシャルシネマダイアログ」(国際協力関連の映画上映と観客の皆さまが参加するディスカッションのイベント)「マダガスカル共和国 現地取材報告講演会」(FNSチャリティキャンペーン(※)促進のためのフジテレビ・山中章子アナウンサーによる取材報告)も同時開催しました。

※「FNSチャリティキャンペーン」はp.32参照



●第6回 中崎町キャンドルナイト (2016年2月13日開催)

「中崎町」をご存じでしょうか。天神橋筋や梅田などのすぐそばで、それらにぎやかさは無縁のように、古からの商店や住宅が立ち並ぶ静かな町です。その方が続けている真冬の恒例行事「中崎町キャンドルナイト」に、関西テレビは地域の一員として後援、実行委員会への参加などで仲間入りさせていただいています。

会場となる中崎町一帯をほのかにともすのは、めいめいが家から持ち寄った瓶やコップが材料の小さなキャンドル。決して派手に、大掛かりにはせず、それよりも一晩限りのこの行事から町中に生まれていく会話を、皆さまは大切にされています。



CSR推進活動「地域コミュニティへの参画」の課題と目標

近畿2府4県ほかのローカルエリア、また全国の視聴者の皆さまに電波を通じて番組をお届けし、それにより皆さまとのコミュニケーションを続けてきた放送局である関西テレビにとって、このような顔の見える、直接の関係で地域社会に貢献しているという活動は、まだ緒に就いたばかりです。正直、やや不慣れとも申し上げてよいと思います。

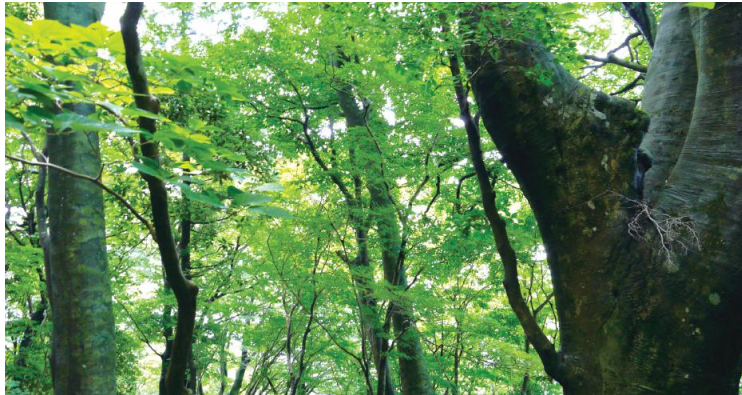
一方地域の皆さまが私たちに期待されるのは、何よりもまず、私たちの放送局としてのノウハウ、知識などを、どのようにして地域の取り組みに生かすことができるか——ではないでしょうか。

ここにも挙げましたように、私たちは各催しの実行委員会に参加し、行事の進行、構成のお手伝いをさせていただくことや、会場のご提供、広報面などのご支援などで、半ば手探りながら取り組みを続けています。

「関西テレビの本業に根差した地域社会への貢献」には、これら以外の、まだ私たちが見いだせていない手法も必ずあるはずですが。

2016年度以降も、そうした新しい手法の模索も含めて、地域の皆さまとのつながりをより強いものとしていきたいです。

02 環境への取り組み



地球環境への負荷を少しでも軽減するため、関西テレビでは省電力設備の導入、スタジオ・事務フロアのLED化、社屋屋上の緑化、雨水利用(社屋で使用する水の10%相当)などを行っています。

またこれらとは別に、エリアの皆さまが取り組む活動への参加なども進めながら、放送局として広く環境問題についての啓発を進めていくことも重要と考え、取り組んでいます。

● 祇園祭ごみゼロ大作戦 (7月15日・16日実施)

京都の夏を彩る祇園祭は、私たちが世界に誇ることのできるお祭りです。しかし期間の1か月中に延べ200万人近くが訪れるという祇園祭では、発生する大量のごみも大きな社会問題になっています。

何とかしなくては——と始まったのがこの「祇園祭ごみゼロ大作戦」。

2014年に京都市や関係団体が実行委員会を組織し、関西テレビもこれに協力しています。

活動の内容は山鉾巡行前、来場者がピークとなる宵々山・宵山の2日間、夜店や屋台の協力で、食べ物に使う従来の「使い捨て食器」を洗えばまた使える「リユース食器」に変えるというもの。その数は21万食分にも上りますが、ボランティア約2千人の活躍で、可燃ごみの量を対前年度比43%以上も削減することができました(2015年度)。

カンテレ社員もボランティアとして2日間の活動に参加、また「大作戦」直前の7月12日放送「カンテレ通信」(※)に実行委員会のメンバーをお招きし、視聴者の皆さまにもお知らせしました。

※「カンテレ通信」14p.39参照



● 廃棄ビデオテープのリサイクル・アート化活動 (2013年度～)

関西テレビでは取材・収録映像の記録媒体としてディスクやメモリーカードなどの導入を進めていますが、いまま並行してビデオテープを使用しています。

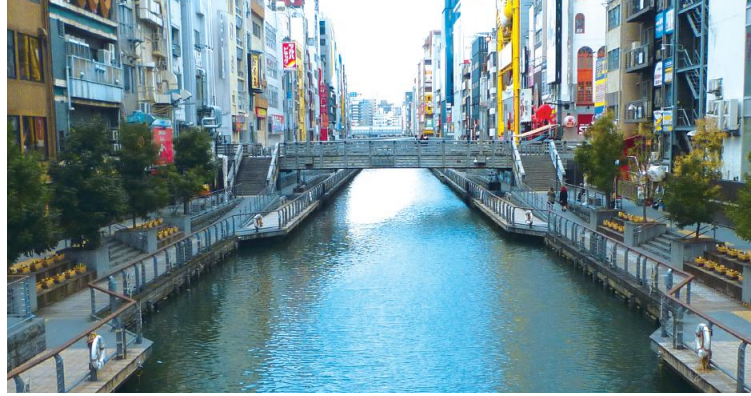
何度か使用すれば廃棄せざるを得ないビデオテープの数は、年間約1万本にも上ります。これができるだけ環境に負荷をかけずに処理し、さらに何かの役に立てることはできないか——と取り組んでいるのが廃棄ビデオテープのリサイクル・アート化活動です。

廃棄テープは社内で消磁(データを消去すること)したのち、京都府亀岡市にある障害者支援施設「みずのき」を通して「太陽共同作業所」に運搬され、ここに通う方々の手で部品ごとに分解されます。

各部品はリサイクルで新たに再生されますが、その一部は現代アーティスト・河合晋平さんの手でアート作品として生まれ変わります。これが廃棄ビデオテープの「リユースアート」です。

それらのアート作品はその不思議な造形で人気があり、各地の展覧会で多くの皆さまにご鑑賞いただいています。





●公益信託グリーンプログラム21 みどり基金 (1993年度～)

関西テレビが産経新聞社と共同で「大阪を緑あふれる潤いのある街にしよう」というテーマを掲げ取り組んでいる「みどり基金」は、スタート以来24年目を迎えました。

大阪府内で緑化活動を進める地域のグループや、公共的な施設の緑化事業に助成を行っており、毎年公募と専門家・有識者ら関係者の協議を経て助成先を決めています。

2015年度の助成先は大阪市中央区の「とんぼりリバーウォーク」緑化事業。これを含め、現在まで50を超えるグループ・団体に助成を行ってきました。



CSR推進活動「環境への取り組み」の課題と目標

地球環境問題は、私たち人類に突き付けられた、まさしくグローバルスケールのテーマです。時とともに増大する一方の緊急性とともに、対処すべき課題の量も膨大です。その巨大なスケールの中で、私たち関西テレビは一企業市民としてやれることを考え、実行し、トータルから見ればたとえわずかなものであっても、積極的な貢献を続けていかななくてはなりません。

物資やエネルギーを作り出す製造業などではない私たちに、たとえば環境負荷軽減のために大きな数値を掲げるといったような貢献のしかたは、その中心とはなりません。地域社会への貢献などと同様、放送局だからできること、すなわちコミュニケーションを通じて皆さまとこの問題を共有し、啓発していくこそがやはり、私たちの第一の目標なのです。

関西テレビのCSR推進活動は、電波を通じた従来の間接的で時に一方的なコミュニケーションに、より直接的で、双方の方法と目的を加えようとするものです。私たちが模索する「CSR」というこの新たな回路を通じて、これまでにはなかった、より目に見えて有効な方策がさらに、必ず見いだせるものと考えています。

03 人権への取り組み



関西テレビでは開始から40年以上となる「FNSチャリティキャンペーン」など2件の募金活動に継続的に取り組んでいるほか、大規模災害の発生に即応して、緊急の募金活動も随時行っています。

また2015年度はカンテレ・オリジナルのCSRイベント「ソーシャル・パフォーマンス」シリーズを4回にわたり実施、そのほか報道機関として社会問題を皆さまとともに考えていくシンポジウムなども企画・開催し、人権意識の啓発に注力しました。

募金活動

関西テレビでは現在「FNSチャリティキャンペーン」および「関西テレビ 東日本大震災救援募金」と2つの募金活動に取り組んでいます。

またこれらとは別に、大規模災害の発生時には「カンテレ災害救援募金」を立ち上げて番組などでお知らせし、被災地の皆さまをご支援しています。



FNSチャリティキャンペーン

「世界の子どもたちの笑顔のために」をテーマに、関西テレビ・フジテレビ系列28局がユニセフ(国連児童基金)とともに1974年から取り組んでいるチャリティー活動です。

発展途上国、大規模自然災害の被災国に暮らす子どもたちは、貧困・虐待・高い乳幼児死亡率・劣悪な教育環境など、さまざまな問題に直面しています。スタート以来43年目を迎えたこのキャンペーンでは番組などを通じて視聴者の皆さまへのお知らせを続けるとともに、関西テレビでも独自にチャリティーイベントを開催し、エリア・地域の皆さまにご理解とご協力をお願いしています。

2015年度の支援対象はアフリカ大陸の東に位置する島国・マダガスカル共和国。
2016年度は西アフリカのトーゴ共和国です。

●ユニセフ 春のチャリティーコンサート (4月25日開催)

2015年度支援対象国・マダガスカル共和国へのご支援を皆さまに呼びかけるため、何よりまずこの国をみんなで知る機会を——と企画したものです。

マダガスカル研究の専門家・国立民族学博物館(大阪府吹田市)飯田卓准教授による講演会をはじめ、マダガスカル音楽をテーマにした映画の紹介、カラフルな衣服や工芸品の展示、そして地域の音楽家たちによるチャリティーコンサートなど多数のプログラムを実施しました。

●マダガスカル共和国 現地取材報告講演会 (2016年2月7日開催)

国際協力をテーマにした「ワン・ワールド・フェスティバル」(※)の一環として開催しました。講師はFNS(フジネットワークシステム)を代表して、2015年4月から5月にかけて支援対象国のマダガスカル共和国で取材を行った、フジテレビ・山中章子アナウンサーです。現地で撮影したドキュメント映像とともに、マダガスカルの子どもの暮らしの現状を詳細にレポートしました。

観客の皆さまからは、映像が伝えるインパクトと現地を体験した山中アナのレポートで、よりリアルに、肌身でマダガスカルを知ることができたとご感想を頂きました。

※「ワン・ワールド・フェスティバル」はp.27参照



「FNSチャリティキャンペーン」過去5年間の実績

| | 支援対象国 | FNS 28局募金額(円) | 関西テレビ募金額(円) |
|--------|--------------------|------------------------|-------------|
| 2011年度 | 東日本大震災支援 ハイチ共和国 | 264,755,613 300,000 | 18,439,947 |
| 2012年度 | チャド共和国 | 53,185,199 | 3,530,601 |
| 2013年度 | ネパール連邦民主共和国 | 47,972,343 | 4,123,581 |
| 2014年度 | フィリピン共和国 | 54,295,318 | 3,986,008 |
| 2015年度 | マダガスカル共和国 | 54,587,213 | 3,740,553 |

関西テレビ 東日本大震災救援募金



2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地をご支援するため、関西テレビではまず初年度となった2011年度はFNS系列加盟社として「FNSチャリティキャンペーン」での募金を行いました。翌2012年度からは同被災地支援のための募金を独自に開始し、現在も「関西テレビ 東日本大震災救援募金」として継続、通算で6年目となりました。お寄せいただいた募金は日本赤十字社を経て、全額を東日本大震災被災地の皆さまにお届けしています。

2011年度から2015年度まで、5年間の募金額は合計64,682,680円となりました。この場をお借りし、皆さまの温かいご協力で改めて感謝申し上げます。

またこの募金はホームページや番組などで視聴者の皆さまへのお知らせを行っていますが、そのほか関西テレビのアナウンサーも独自の活動を継続しています。

●アナウンサー街頭募金

関西テレビ本社屋前で、アナウンサーたちが募金の呼びかけを行っています。通り掛られた皆さまから、いつも温かいご協力を頂いています。

●「関西テレビ アナウンサー朗読会」での募金活動

アナウンサーたちの「もうひとつの顔」を知っていただくとうと毎年9月に開催している「関西テレビ アナウンサー朗読会」でも、東日本大震災支援の募金を呼びかけさせていただいています。こちらへも観客の皆さまからいつもご支援を頂いており、厚く御礼申し上げます。



「ソーシャル・パフォーマンス」シリーズ

パフォーマンスや演芸の世界にこんなジャンルがあるのをご存じでしょうか—「車いすダンス」「手話落語」「手話コント」。

障害のある方たちと健常者とが協力し合い、話芸・踊り・音楽などでさまざまな表現の手法を生み出し、訓練を重ね、私たちに見事なパフォーマンスを見せてくれます。人と人との間に立ちをはだかる壁—しかも障害の「ある・なし」となると余計に厚く、高くなってしまふこの壁—彼らのパフォーマンスは、何とかそれを乗り越えようとする試みです。

イベント「ソーシャル・パフォーマンス」シリーズを関西テレビでは2014年度に開始、昨年度は4回開催しました。



●シリーズ第2回「車いすダンス」(5月24日開催)

車いすを使うダンサーたちが群舞、ソロ、デュエットと、華麗なダンス・パフォーマンスを披露する「車いすダンス」。
スピード、勢い、美しさ—車いすダンスでしかできない表現が次から次へと飛び出す、完成された芸術の領域です。

出演は20年近く車いすダンスを追求しているグループ「ジェネシス オブ エンターテイメント」(大阪市中央区)のメンバーたち。
世界ランキング8位、全日本車いすダンス選手権で何度もナンバーワンに輝くダンサー・鈴木剛さんをはじめとする総勢20人が、圧倒的なパフォーマンスを繰り広げました。



●第3回「手話寄席」(8月8日開催)

「しじみ売り」「ねずみ穴」など人情噺を語れば天下一品、落語家の桂福団治師匠。故・3代目桂春団治師匠に入門して56年、上方落語の「重鎮」と申し上げてよいでしょう。

福団治師匠のもう一つの顔、それは「手話落語家」です。30代の時に声帯ポリープを患い、一時的に声が出なくなったことがきっかけで「手話で落語をやったらどないやろ」と考案、勉強と研究を経て「手話落語」を確立されたのです。

手話落語のお弟子さんたちは現在7人—こちらの皆さんは「桂」ではなく「宇宙亭」一門を名乗られます—師匠の下で日々厳しく、いえ楽しく稽古に励まれています。

関西テレビで「手話落語」の寄席を開いたのは、2014年度に続き2度目。2時間突っぱなしのステージを、今回もまた届けていただきました。

手話落語がどのようなものかもっとお知りになりたい方は、次回のカンテレ「手話寄席」にぜひ、お運びください。



●第4回「ロック&アート Happyカムカム!」(9月27日開催)

ロックやサルサの音楽ライブ、その場で生まれる即興アート、工芸やリズム遊びのワークショップ—ジャンルの制限はまったくなく、障害のある方と健常者が一緒になって、とにかく楽しくやろうと集まりました。

ライブには5組のバンドが出演、いずれも障害者・健常者の混成チームです。各バンドとも独特の音楽で、こうしたチームだからこそ出せる「音」があるのだ、ということをお私たちに教えてくれました。

ほかに「上手下手は関係なし」のバリアフリーな織物として関西の女性に人気の「さりを織り」ファッションショーなども加わり、来場者の皆さまににぎやかな一日を過ごしていただきました。



●第5回「手話エンターテインメント」(12月20日開催)

聴覚障害を克服する手段としての「手話」。

大学生ら若者たちはこの「手話」にもっと元気な命を吹き込み、エンターテインメントとして楽しんでいます。

関西の10大学から手話サークル、手話クラブのメンバーたちが集ってこの日披露してくれたのは「手話コント」「手話コース」「手話演劇」「手話体操」など。

確かに手話とはまず、コミュニケーションの手段です。

それなら「楽しいコミュニケーション」や「笑えるコミュニケーション」だって当然あるはず——情熱とアイデアを結集したそれぞれの「手話エンターテインメント」をステージいっぱいに展開する皆さんの若いイイタリティーに、私たちも圧倒されました。



そのほかの取り組み

●大阪市里親会シンポジウム (11月8日開催)

「親とくれないこどもたちの今」の副題で、大阪市里親会、NPO法人児童虐待防止協会などから専門家の方々にお越しいただき、里親制度について知るためのシンポジウムを開催しました。

里親になりたいという気持ちをもつ人のためには「養育里親」「専門里親」や「週末里親」といった、それぞれの家庭状況に合った選択肢がある——など、制度の基本的な知識を教えていただき、さらに経済や心の面で心配なことを会場で話し合うなど、多くを知り、深く考える一日となりました。

また関西テレビが里親をテーマに取材・放送したドキュメンタリー、ニュース番組もご覧いただきました。

関西テレビではこうした「親と子」の問題を、番組などを通じてこれまでも考えてきました。制作したVTRを会場でご覧いただいたことも含め「カンテレらしいシンポジウム」をお届けできれば、と取り組みました。



●児童虐待防止協会「子どもの虐待ホットライン」への支援

関西テレビの報道キャンペーンをきっかけに、1990年、子どもの虐待の相談救助活動を行う「児童虐待防止協会」が設立されました。協会は電話による相談窓口を設けた日本初の民間団体で、窓口を「子どもの虐待ホットライン」と呼び、活動を続けています。

ホットラインでは虐待に悩む母親や子どもからのSOSを受け付け、虐待の防止と早期発見を目的とするこの電話相談の件数は、2015年度末で累計5万7520件に達しました。

また協会は2002年にNPO法人の認証を受け、市民グループ、学生といった方々への講演会、啓発活動や親たちのためのグループケアと、より多様な活動に取り組んでいます。関西テレビも協会発足以来20年以上にわたり、児童虐待防止キャンペーンのお知らせを毎日のニュースで放送し、活動の支援を続けています。



現在放送中のお知らせスポット

CSR推進活動「人権への取り組み」の課題と目標

ご覧いただきましたように、2015年度は関係者各位のご協力により4回の「ソーシャル・パフォーマンス」を開催することができました。

そしてパフォーマンスを披露して下さった各出演者の皆さんからは、とても多くのことを教えていただきました。

特に申し上げたいのは、おのおののイベントが笑顔や歓声に満ちた、とにかく楽しいものだったということです。

皆さんがステージの上から伝えようとしている共通のメッセージは、バリアを越えよう、人と人とはみんな同じ、という原点にもう一度戻ってみよう— ということではないかと思えます。

「楽しい」をキーワードにそれを伝え、観客の熱い支持と共感を集めているこんなにも多くの方々がいらっしゃるといふこと、それこそが私たちの最も学んだことでした。

カンテレにも伝えること、そして楽しく伝えることに取り組む社員が大勢います。

その力をもっと動員して、ご出演いただいた「ソーシャル・パフォーマンス」の皆さんにも恥ずかしくない活動をさらに新たに企画し、展開していきたいと思っています。

自己検証番組『カンテレ通信』

関西テレビが制作する番組を自ら検証・批評し、視聴者の皆さまによりよい放送をお届けできるよう取り組んでいる自己検証番組です。

オンエアは原則毎月第3・第4日曜、あさ6時30分から7時までです。

関西テレビでは個別の番組について外部有識者に審議いただく「番組審議会」と、番組を含む社業全体について公正・中立の立場から監査いただく「オンブズ・カンテレ委員会」という2つの第三者会議を定期的に開催しています。

これら委員会からの報告のほか、この『カンテレ通信』では、皆さまから頂戴したご意見に現場担当者が一ずつお答えする「ご意見ピックアップ」のコーナー、そのほか関西テレビのメディアリテラシー・CSR推進活動をレポートするコーナーもレギュラーで設けて放送しています。

『カンテレ通信』の目標は、関西テレビの番組をより信頼でき、お楽しみいただけるものとしていくこと、そしてメディアリテラシーやCSRの活動をお知らせすることで、カンテレを皆さまにもっと身近な放送局としていくことです。

内容や構成、表現はこれでよかったのか、正しいメッセージをお伝えすることができたのか— この冊子でご報告しているさまざまな活動と同様に、番組『カンテレ通信』でも掲げた目標への反省と模索を繰り返しながら、毎回制作を続けている次第です。



CSRレポート 2016

関西テレビ放送 2015年度 CSR報告書

編集・発行 関西テレビ放送株式会社 CSR推進局

対象期間 2015年4月1日～2016年3月31日

発行年月 2016年7月

会社住所 〒530-8408 大阪市北区扇町2-1-7

電話番号 06-6314-8888(代表)

このレポートはホームページでも開示しています。

<http://www.ktv.jp/csr/>



この冊子は100%再生紙を
使用して制作しています。

古紙・リサイクル紙100%再生紙を使用